

道徳科学習指導案

指導者

T 1

T 2

1 日 時 令和6年6月11日（火） 5校時

2 学 年 第2学年（11名）

3 主題名 「あたたかい 心」 [B 親切、思いやり]

4 ねらい

うさぎの優しさに触れ、自分のことしか考えられなかったことを後悔し、涙するきつねの気持ちを考えることを通して、困っている人のために親切にすることは、みんなの心が温かくなるなど、とてもすてきなことであることを理解し、互いに助け合っていこうとする心情を育てる。

5 教材名 「くりのみ」
（「小学どうとく 生きる力」日本文教出版）

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第1学年及び第2学年の内容項目[B 親切、思いやり]、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」に基づくものである。これは、第3学年及び第4学年では、「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」、第5学年及び第6学年では、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」に繋がっていく。

集団の生活において、自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできない。互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようにすることが不可欠である。低学年においては、家族だけではなく家の周りの人や学校の人々、友だちなどとの関わりが次第に増えてくる時期にある。児童がこれからの生活の中で多くの人と関わり、よりよい人間関係を築くために、誰に対しても分け隔てなく温かい心で接し、親切にすることが必要である。そこで、身近な人に広く目を向け、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにと考え、本主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、きつねとうさぎの振る舞いが対比的に描かれており、うさぎの相手を思う優しい心やその行為の大切さが伝わってくる一方で、きつねの心の弱さにも共感できる教材である。主人公のきつねは、腹いっぱい食べても余るほどどんぐりを見つけたにもかかわらず、自分のことだけを考えて、うさぎに嘘をついてしまう。きつねが困っていると考え、やっと見つけた栗の実を差し出したうさぎの優しさに触れ、涙するきつねの心情を考

えることを通して、相手のことを考え、親切にした結果、相手の喜びが自分の喜びになり、親切は、自分や相手、周りの人たちの心を温かくする素敵なことであることに気づくことのできる教材である。

指導に当たっては、児童が主体的に考え、友達と意見交流をすることを通して、道徳的価値についての考えを深められるようにしていく。そのために次の4点に留意する。

- ① 導入では、親切が大切であると思うか問いかけたあと、親切にすることのよさについて、新しい発見を探すことを伝えることで、課題意識をもつことができるようにする。
- ② 展開前段では、自分のことだけを考えて行動するきつねの気持ちについて考え、共感させることで、自分を優先してしまうという弱さについて、自分事として考えることができるようにする。
- ③ 中心発問では、役割演技をした後に、うさぎの優しさに触れたきつねが涙を流しながらどのようなことを考えているのかを問い、うさぎの優しさやきつねの心情の変化を共感的に捉えることができるようにする。また、きつねのうれしさの大きさやどんぐりを隠していたときからの変化を考えることで、相手が困っているときに親切にすることはとてもすてきなことであることを理解し、互いに助け合うことの大切さに気づくようにする。
- ④ 展開後段では、改めて「どうして親切にするのだろうか。」について考えることで、親切にすることの新たな価値に気づくようにする。

7 準備物 挿絵、ホワイトボード

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	指導形態		○留意点●評価
			T 1	T 2	
導入 (3分)	1 課題意識をもつ。	○「親切」は大切だと思いますか。それはなぜですか。 ・助けることはいいことだから。 ・気持ちがいいから。 ・褒めてもらえるから。 どうして親切にするのだろう。	発問	板書	○親切にすることのよさについて、新しい発見を探すことを伝えることで、本時の課題につなげる。
展開前段 (27分)	2 「くりのみ」を読んで考え、話し合う。	○腹いっぱいのだんごりを食べたきつねは、どんな気持ちでどんぐりを隠したのでしょう。 ・他の人に取られたくない。 ・またあとで食べよう。 ・全部僕のもの。	発問	板書	○きつねの気持ちを考えることで、自分を優先してしまうという弱さに共感することができるようにする。

終末 (5分)	4 学習の振り返りをする。	○今日の学習の振り返りを書きましょう。 ○学級で見られた心が温かくなった行動を紹介します。	発問 机間指導	机間指導	○誰かに親切にして、相手も自分も嬉しくなったときのことを振り返らせる。
------------	---------------	--	------------	------	-------------------------------------

9 板書



10 成果と課題（成果…○ 課題…●）

- 授業のねらいとゴールの姿、教材の児童が考えにくいところを明確にしていたことで、児童の言葉を生かしながらねらいにせまることができた。
- 親切の大きさについて、ハートを用いて視覚化することで、登場人物の気持ちや親切にしてもらったときの気持ちの変化を考えやすく、した方もされた方も嬉しくなることを捉えることができた。
- 授業後に「だから、この話を讀んだ自分もうれしくなるんだ。」とつぶやく児童の姿が見られ、教材と自分の生活を結び付けて考えることができていた。
- 中心発問では、きつねの気持ちを考えるために役割演技を行ったが、児童にとっては難しかった。「えっ」というきつねの言葉を大切に伝える必要があった。また、役割演技をするのに時間をかけすぎてしまい、振り返りをする時間が不十分であった。
- 児童からねらいにせまった言葉やつぶやきがあったが、教師とのやり取りのみになってしまった。学級全体に広げると、親切にすることについてよい考えが深まった。

11 今後の「改善・充実」に向けて

- ・自分の生活について振り返る時間を十分に確保できる授業展開にする。授業の中で発見した考えをもとにして、これまでの自分におけるプラス面を振り返ることができるようにする。
- ・ハートを用いた視覚化は、児童が考える上でとても有効であったので、児童が考える方法の一つとして授業づくりをしていく。